

●新型コロナウイルスどう考えるか

現在、新型コロナウイルスの感染防止のために小中高の学校の全国一斉休校が行われていて、大きなイベントの自粛が要請され、プロ野球の開幕延期や大相撲春場所は無観客で実施されるなど、多くの人の集まるイベントの自粛となっています。それで里山の会でも3月の「自然と環境講演会」や4月の「親子花見乗船体験」や春の「野草を味わう会」などのイベントを中止としました。何時まで続くのか先行きが大変心配です。このまま継続となると屋内はもちろん屋外での催しも開催を自粛することになってくると、いよいよ大変なことになります。現在新型コロナウイルスがマスコミを賑やかしていますが、このままでは影響は更に大きくなって来ると思われます。4月には新年度の総会を予定していますし、以後の活動日決定にも影響が出てくることになります。現在感染のピークをどう抑え込もうとやっきになっている最中にクラスター的な発生が大阪で発生したようです。事態が大きく変化する兆しのように見えます。里山の会としての活動見通しをどのように見通せばいいのでしょうか。大変難しい局面に遭遇しています。

●会誌 48 号原稿募集

会誌の原稿の締切が3月20日と迫ってきております。会員各位には何かと心苦しいのですが、里山の会は今年12月12日を25周年記念として位置づけることを決定してきました。それで会員各位がご加入いただいた時から今日までの期間に印象に残った出来事や忘れられない事柄などについて思い起こしていただき、これからどう発展すべきかをご指示いただけると大変ありがたいです。こういった原稿をお願いしています。現在安長さんから原稿が届いております。各位におかれても締切日に間に合うようにできればメール送信いただけると大変ありがたいです。書式は次のとおりです。用紙はB5で、空白は上下左右25mm、文字ポイントは10.5、明朝体を使用し、ワードでお願いします。編集の関係で以上の書式をお願いいたします。メールでの寄稿が大変有難いです。ホームページから送付先をご確認ください。なお原稿用紙での手書き原稿でも結構です。これまで通りご寄稿をお願いいたします。

●普賢寺小学校へ働きかけ

昨年末から里山農園での取り組みの充実発展を検討してきましたが、地元との連携強化が大きなポイントであると確認してきました。新年早々の「七草摘み、七草粥の会」に地元区長さんにご招待を案内いたしました。それぞれの皆さんは「その日は都合が付かないが関心がある」とおっしゃっていただきました。普賢寺小学校の校長先生は参加しようと車を走らせてくださいましたが、谷あいが一筋違い出会うことができませんでした。少し残念でした。こうした経過もありましたので、新年度からは事前にしっかりお話しして手抜き無きよう準備をすることにして、里山の会は校長先生に面会を申し入れ、都合がついた6日に播川、太田、大村、金田さんの4名が先生をお訊ねしました。里山の会は今年25年目を迎えていること、国蝶オオムラサキの観察調査を永年継続していること、炭焼き体験や稲作などを実施、40年前から放棄田となっているところを開拓し、里山農園として保全に努めていることなどをお話し、出来ればどんぐりなど実のなる落葉樹の植樹や希少生物の観察調査、小さな生き物の発見等を一緒に行ってみませんかと呼びかけをいたしました。校長先生は父兄や教職員が参加する運営協議会にはかつてご返答することとご返答をいただきました。初めて正面から学校を訪問して得た感触は、丁寧な対応で十分反応が良かった。大いに期待できるのではないかとといった感想が話されました。実現する子どもたちが多数お越しになるので、安全対策などに力を入れ、期待に応えられるような農園活動としていかなければならないと少し刺激を受けました。

●ユキワリイチゲの観察

木津川での植物観察で最も感激したのはレンリソウや、フナバラソウ、オオバクサフジ、など絶滅危惧種と指定されている植物の品種の多さと各所に散在している生育場所の多さでした。中でもイヌハギやレンリソウ、マキエハギなどは一箇所の生育地しか見つけられませんでした。大変なものが見つかったと感激したものでした。それが調査を繰り返すうちに数カ所に分散して生育していることがわかりました。現在では40個所で管理しています。この間かなり注意して観察を重ねていますが、1個所しか生育地が無い大変貴重なものもあります。そういった希少種と指定されていないのですが、美しさでは木津川で最高位にランクされ

るものがユキワリイチゲです。それが 24 km の範囲で 1 か所しか生育地が見つかっていないのです。もともと山地に生育する物らしいのですが、なぜか木津川で花を咲かし続けてきているのです。毎年未だ春の訪れには程遠いこの頃に姿を見せてくれるのです。イヌナズナもそろそろではないかと思います。

●少し早いお知らせですが秋に二つの大イベントが浮上中

過日自然環境保全京都府ネットワークの役員会が開催され、竹門先生と同席の機会がありました。その折今年も中聖牛の製作について昨年と同様にお願いします、そして中聖牛の設置もよろしくとお話がありました。続いてこれまで木津川で取り組んできた数々の伝統工法の取組に全国各地の皆さんが大変興味を持っていたので、この秋には全国河川生態学会と河川工学学会から木津川を視察する取り組みを計画しているのでもよろしくというご挨拶がありました。また自然環境保全京都府ネットワークからも木津川での視察を計画しているとの連絡がありました、このころは 27 本の竹蛇籠製作の最中ですので、ぜひとも眺めるだけでなく伝統工法を体験頂く良い機会と受け止めてみたいと思います。特に先の学会の皆さんは全国からご参集をいただくこととなりますので、現物を見て製作体験をいただく絶好の機会です。普及啓発の良い時だと考えられます。大いに歓迎しましょう。里山の会結成 25 周年記念事業と位置付けられる意義ある計画だと思われまふ。みんなで歓迎しましょう。

●京都府山城広域振興局からの呼びかけ

これまで京都府からの一連の取組に対しての理解があつて、私たちの活動の成果を広く社会に広報することに援助をいただけてきました。発足以後の 10 年後のころから京都府からの呼びかけに呼応して取り組んできた結果、誰もが考えられない成果を生み出すことができたのはこういった活動助成金の役割が大きかったのです。これまでの地域力再生プロジェクトが昨年 4 月から交響プロジェクトと名称を変え、内容の大きな変化があつて、戸惑ってきましたが、20 年度からは更に地域課題の解決へという方向付けが強化されるように伺えます。今回開催される説明会も 9 時 30 分から午後 4 時までの長時間の説明とされていることから、抜本的な内容変化ではないかと推察できます。3 月 27 日 4 月 8 日の 2 回が宇治の振興局、4 月 15 日が木津の振興局、4 月 17 日が京田辺市での振興局庁舎で開催されます。いずれの会場も 1 団体 2 名迄の申し込みと制限されています。内容はいずれも同じものだそうです。いずれも事前申込制なのでご都合をつけていただきぜひ多くのご出席をお願いいたします。4 月 17 日には大釜さんと太田さんがご出席予定としていただきました。

●自然環境課からの説明を受けることに

里山の会は、京都府が絶滅の恐れのある野生生物の保全に関する条例に基づいて保全団体指定がされています。里山の会からはレンリソウ、フナバラソウ、ヤマトサンショウウオの三種の保全団体に指定されています。これまでは自主的に確認保全を行ってきましたが、新年度にはこの条例にもとづいて保全活動計画を届け出て、財政的な裏付けもあるようなのでさらに充実した保全維持調査活動の充実を図りたいと考えました。その手順の最初として、3 月 25 日(水)の午後 13 時から京都府から説明を受けようと要請をいたしました。

●木津川における希少種植生調査管理業務

植生調査には調査回数 13 日 50 人、除草作業には 37 日 142 人が参加いただき業務を完了することができました。生育調査では毎月主要な対象植物の生育地に焦点を当てて、調査頂きました。除草作業では受注書で指示されている以外に面積や箇所数、除草回数を増やし自主的に除草作業を行い生育管理に取り組みました。また全管理地に番号札を取り付け、どなたでも管理調査実施が可能になるよう徹底しました。生育調査では夏季の調査や降雨の際の実施に悩まされました。除草作業ではハンマーモアの操作が調子にムラがあつて、操縦が容易でなく苦勞しました。また管理地内に杭や木材の木っ端や金物やペットボトルなどが放置され、ロープが乱雑に古くなって放置され刈刃に巻き付きその除去にかなり手間取りました。丁寧に除去しなければならず整頓に時間がかかりました。相当苦勞しながら作業に当たりました。ハンマーモアも使用頻度が激しく疲労故障が目立ってきました。数回の故障修理に出さねばならない事態になり作業回数や日数が増えることになりました。しかしハンマーモアの新品を購入したので 2 台になり作業量は半分になり作業時間にゆとりが出てきて丁寧な作業が可能になりました。